

第18回
「萩」
 地域のたから
 自慢の逸品

仙台を代表する花

秋風が心地よく感じられるようになると、仙台のあちこちで、大きく茂った萩が赤紫の花を咲かせている風景を見ることが出来ます。この萩は、仙台市の市花に選ばれており、また宮城県の県花は萩の一種であるミヤギノハギとなっております。宮城県の県花は昭和二九年（一九五四）に一般公募で選ばれたのですが、ミヤギノハギは投票数の九六パーセントという圧倒的支持を集めたのです。

このように萩は仙台を象徴する花として親しまれ、その名は団体、会社や店舗、商品



萩をあしらったデザインのマンホールと東北大学の学章(学章画像提供:東北大学)

● 仙台市博物館 学芸普及室長 菅野正道

施設などの名称に広く用いられています。仙台市内の学校でも、萩を校章のデザインに用いたり、校歌に詠みこんだりするところが少なくありません。その代表が、「学都」仙台を象徴する東北大学。一〇年ほど前にロゴマークや学章を制定した際に、萩をモチーフにしたデザインを採用しています。

そのほかにも、仙台市内のマンホールの一部に、萩のデザインが刻まれたものが用いられているのはご存じでしょうか？ お気づきでなかった方は、この機会に地面をよくご覧になってみてください。

宮城野の萩

萩が仙台地方を代表するような花だったのは、はるか古代からのことです。仙台の東郊には「宮城野」と称される広大な草原が広がっていました。萩はこの宮城野とセットでみちのくを代表する歌枕「宮城野の萩」として、都の歌人たちの憧れの的となったのです。

みやこ人たちの宮城野の萩に対する憧憬を示すものとして、平安時代後期の公家で歌人としても知られる橘為仲（二〇一四年頃～一〇八五年）のエピソードがあります。為仲が陸奥守としての任を終えた際、宮城野の萩を掘り起こして二の長櫃に入れ、ちよと都に着く頃に花盛りになるように調整して持ち帰り、人々をおおいに喜ばせた、というのです。塩釜の風景を模した庭を作り、海水を運ばせて塩焼きも楽しんでたという同じく平安時代の

歌人・源融の逸話と共に、みやこ人の「みちのくの歌枕」に対する憧れは、私たちが想像できないほど大きなものだったようです。

その後も、宮城野の萩は歌人や俳人、文化人たちの憧れの的であり続けました。芭蕉も『奥の細道』の旅でこの地を訪れた際、旧暦五月で萩の花にはほど遠い季節であるにもかかわらず、「萩の花が咲き乱れる秋の宮城野の風景が惚ばれる」と書き残しているほどです。

こうした文化人たちの気持ちにくすぐるものとして、宮城野の萩の枝を軸に使った筆が作られて、仙台の特産品となっていたことは、以前にこの連載でもご紹介したところです。

センダイハギとミヤギノハギ

萩のなかには、仙台にゆかりのある名を持つものがあります。センダイハギとミヤギノハギです。どちらもマメ科の植物ですが、センダイハギは多年草で初夏に黄色の花を咲かせる品種で、一般に私たちが萩として認識しているのは落葉低木で赤紫の花をたくさん咲かせるミヤギノハギが多いようです。

ところが、まぎらわしいことに、歌枕に詠まれた「宮城野の萩」はミヤギノハギとは別物なのだそう。ミヤギノハギは江戸時代に品種改良して作りだされた園芸品種である可能性が高く、もともと宮城野に生えていたのはツクシハギが主体で、ほかにヤマハギやキハギといったハギの仲間も混じっていたと言われています。

このツクシハギは、ミヤギノハギと同じ赤紫の花を咲かせますので、イメージ的には大きな違いは無いかもしれませんが、花を築しむのに、あれこれ詮索するのも無粋ですので、すがすがしい秋風とともにハギの花を眺めながら、いしえの歌人たちの思いにふけてみてはいか

華やかな大名文化や、仙台伊達家との関係を伝える貴重な資料をご紹介します。

(上) 伏見御殿屏風(唐人図)
 (左) 香木 銘 樂舟
 伊達政宗より秀宗へ分与

いずれも
 (公財) 宇和島伊達文化保存会蔵

西国の伊達 宇和島伊達家に伝来する貴重な文化財がはるばる仙台にやってくる!

歴史姉妹都市締結40周年記念 特別展

宇和島伊達家の名宝

—政宗長男・秀宗からはじまる 西国の伊達—

10/9(金)~11/23(月・祝)

※会期中、一部展示替えを行います。

【観覧料】 一般：1,100円 大学・高校生：600円
 小・中学生：300円

■主催：仙台市博物館 ■共催：河北新報社、TBC東北放送
 ■特別協力：(公財) 宇和島伊達文化保存会、宇和島市立伊達博物館、瑞巖寺

おすすめ! 仙台市史

〔通史編7 近代2〕
 仙台市史 さいごく
 A5判オールカラー573頁

〔通史編8 現代1〕
 仙台市史 さいごく
 A5判オールカラー599頁

戦後70年の節目となるこの夏、仙台が経験した戦争と戦災、そして戦後復興の歩みを「仙台市史」でたどってみませんか。

※2冊とも本体価格(税別) 2,858円。お求めは県内主要書店で

仙台市博物館 開館時間：午前9時～午後4時45分(最終入館午後4時15分) ●9月の休館日：毎週月曜日(9月21日は開館)、9月24日(木)

TEL:022-225-3074 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/